



# 100年先もおいしいさくらんぼを

愛らしい姿と甘酸っぱい味わい。今シーズンも多くの人を魅了した「山形のさくらんぼ」は、日本のトップブランドであり、この先ずっと大切にしたい「山形の誇り」です。品質の高さで知られる多田農園(山辺町)をこのほど、さくらんぼファンの代表・黒澤洋介氏が訪れました。

## トップブランドである山形のさくらんぼ



**多田** おかげさまで山形のさくらんぼはトップブランドとしての地位を築き、全国的に広く認知されるようになりました。

**黒澤** 私も毎年全国各地の知人へさくらんぼを送っており、今年も多くの方から喜んでいただきました。

**多田** 全国から届くそのような声は私たち生産者にとって、よりよいさくらんぼを生産する原動力となっています。しかし、山形県の農業の顔ともいえるさくらんぼですが、生産の現場ではさまざまな課題があります。気候の変動や生産者の高齢化、後継者不足などにより、このままでは現在の品質・収量を維持できるのか危惧しています。

**黒澤** 確かに今の品質、ブランド力を維持していくためには、現在抱えている課題を解決するための取り組みを早急に行わなければならないと考えます。まずは人材の育成と、しっかりした経営の確立、その上で新しい品種の開発や、他県との差別化などが課題解決の糸口になるのではないのでしょうか。

## おいしさを未来に引き継ぐために

**多田** 弊社では、主力である佐藤錦の他に、おくての品種を特殊な方法で冷蔵保存し8月中旬まで味わえるようにした「紅姫」を商品化し、好評を博しています。出荷期間が限定されるさくらんぼですが、紅姫の登場により長期にわたって味わってもらえるようになり、付加価値を高めることにもつながりました。また、高品質なさくらんぼの生産を継承するため、若手就農者を正社員として雇用し、これまで私が培ってきたノウハウを引き継いでいます。山形のさくらん



ぼがこれから先もトップブランドであり続けることが私の願いであり、その願いを彼らに託していきたいと考えています。

**黒澤** 山形にいと、さくらんぼの名声や魅力は当たり前のように思いますが、先人の努力とともに現状や課題についても理解を深めてもらい、100年先もトップブランドであり続けるため、みんなで支援していければと思います。



黒澤洋介氏(やまがた被害者支援センター 理事長) | 多田耕太郎氏(株式会社多田農園 代表取締役)



## 次世代を担う安食常務にもお話を聞きました



多田農園 常務取締役  
安食 政史(27)

安食政史さんは、平成元年寒河江市生まれ、山形東高から東北大学農学部へ、更に同大学院農学研究科を平成26年3月に修了し、同年4月多田農園に入社。以来3年間栽培管理や生産販売の現場作業を習得。今年4月、株式会社多田農園常務取締役役に就任。現在、農園経営全般に携わっています。

「学ぶべきことは多いですが、お客さまに直接『おいしかった』と言われると手応えを感じます」と目を輝かせます。

祖父母が農業をやっており、小さなころから農業は身近でした。「山形で農業をやるならさくらんぼ。農業法人で、さまざまな所を見てみたい」との思いから、求人があった多田農園に就職し、さまざまなノウハウを貪欲に吸収しながら栽培に取り組んできました。「手を掛けていいものができたときの達成感は農業ならではの、『やまがた農業経営塾』で経営のことも学んでおり、今後に生かしていきたい」と意欲を語っていました。



やまのへ多田耕太郎のさくらんぼ

## 多田農園

〒990-0321 山形県東村山郡山辺町元宮63-2

TEL.023-664-8302 FAX.023-664-8336

<http://www.tadanoen.com>

山形多田農園 検索